

JA全厚連情報



厚生連病院事務部長セミナーを開催

目 次

- 地域医療構想、病院経営、医療DX、人材育成をテーマに研修
厚生連病院事務部長セミナーを開催 1
- 財務分析の基礎等について研修
厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第2クール）をWEB開催 3

・通信員だより

- 「がんゲノムキャラバン隊」による講演会を開催しました（能代厚生医療センター） 4
- 第60回 横手救急フォーラムを開催しました（平鹿総合病院） 5
- 企業型DCセミナーを開催（JA茨城県厚生連） 6
- 厚生労働省の定める認知症サポート医養成研修を修了（介護老人保健施設ほほえみの丘） 7
- 学生向けインターンシップを開催いたしました（相模原協同病院・伊勢原協同病院） 8
- 防火・防災訓練を実施しました（相模原協同病院） 9
- 2025年度 第1回テクノエイド研修会を開催しました（JA長野厚生連） 10
- 防火・防災避難訓練について（滑川病院） 11
- 「医療安全研究発表会」を開催しました（JA三重厚生連） 12



地域医療構想、病院経営、医療D X、 人材育成をテーマに研修

厚生連病院事務部長セミナーを開催

本会は9月4日及び5日に、厚生連病院事務部長セミナーを東京ガーデンパレスで開催し、19 厚生連から 86 名が参加した。

本セミナーは、病院経営全般にかかる情報の取得、厚生連病院事務部長間の連携の促進を図ることを目的に開催しており、今年度は、地域医療構想や病院経営、医療D X、人材育成をテーマに開催した。

1 日目は、「新たな地域医療構想について」と題し、厚生労働省 医政局 地域医療計画課 課長補佐の梶原 峻 氏が講演を行った。

梶原氏の講演では、新たな地域医療構想について2040 年頃を見据えた医療提供体制の構築に向け、外来・在宅医療や介護との連携、病床の機能分化・連携、高齢者救急への対応、医療D Xの推進などについて説明いただいた。参加者からは、「今後の地域医療構想の方向性を学べた」、「2040 年を見据え、当院の医療圏の分析とともに担う機能の検討を早期にすすめていく必要性を再認識できた」等の感想が寄せられた。

続いて、「病院経営に携わる事務職の役割」と題して、医療法人徳洲会 湘南鎌倉総合病院 事務長の芦原 教之 氏が講演を行った。

芦原氏は講演で、「やる気を頼らず、行動を継続できる仕組みをつくることが重要」とあり、事務職のリーダーとしての考え方や職場での部下とのコミュニケーションの大切さなどについて、自身の経験を交えながらお話しいただいた。

参加者からは、「リーダー及びコミュニケーションについて気付かされることがあり大変参考になった」、「事務長としての信念や覚悟、また人材育成にかかる日頃のコミュニケーション方法を聞けてとても有意義な講演であった」等の感想が寄せられた。



梶原氏の講演の様子



芦原氏の講演の様子

1 日目の最後には、5 年ぶりに情報交換の場を設け、①医療D X、②経営改善、③人材確保・人材育成・コンプライアンスの3 題のテーマ別に分かれ、フリーディスカッションを行った。参加者からは、「他の厚生連の方と意見交換できる機会があるのは非常に良い。今後も続けて欲しい」、「ようやくコロナ前のセミナーに戻った感じがした。ぜひ続けていただきたい」等の感想が寄せられた。



情報交換の様子

「他の厚生連の方と意見交換できる機会があるのは非常に良い。今後も続けて欲しい」、「ようやくコロナ前のセミナーに戻った感じがした。ぜひ続けていただきたい」等の感想が寄せられた。

2 日目は、『すでに起こった未来、攻めながらソフトランディング』—ハコモノからヒトへ、そしてテクノロジーへ—と題し、社会医療法人祐愛会 織田病院 理事長の織田 正道 氏が講演を行った。

織田氏は講演で、人口構造の変化を見据え病床規模の縮小やコスト削減に偏らず、I C T、A I の活用など新技術や新たなサービスへの投資を進め、急激な病床削減や人員整理による地域医療の混乱を防ぎつつ、段階的に進めることが重要と述べた。また、在宅医療支援D XやA I を用いた介入判定、スマートベッドやR P A 導入による業務効率化等について、事例を紹介した。参加者からは、「人材確保が難しくなる中、D X の必要性を改めて感じた」、「特に在宅医療分野での活用が参考になった」等の感想が寄せられた。



織田氏の講演の様子

2 日目最後の講演は、「若手職員（Z 世代）の人材育成」と題して、社会保険労務士法人 山口事務所 代表社員 特定社会保険労務士の山口 寛志 氏が行った。

山口氏は講演で、Z 世代の価値観や職場での意識、育成上の課題について、データと事例を交えてわかりやすく説明いただいた。



山口氏の講演の様子

参加者からは、「当方でもZ 世代の扱い方に苦慮しているので、参考にしたい」、「業務を同僚・部下とすすめていくにあたり、業務に対する動機付けの重要性を再認識した」等の感想が寄せられた。

厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第2クール）をWEB開催

本研修会は、研修会参加者が将来において、病院・施設の運営及び管理を担う能力をそなえるため、経営管理に必要な財務知識の習得とマネジメント能力の向上を図るとともに、研修参加者相互の情報交換・ネットワーク作りを目的として、平成 23 年度より開催している。講師は有限責任監査法人トーマツ P S H C 東日本 シニアスタッフの吉村氏とスタッフの田中氏が担当した。

研修会は、講義・演習・グループディスカッションで構成しており、第2クールでは、財務会計の基礎をテーマに、①財務分析の前提と内部統制、②財務分析の基礎、③経営指標の基礎、④財務分析・経営指標の復習、及び⑤財務分析の活用基礎演習について研修を行った。



初日は、財務分析の基礎を中心に学んだ。財務報告の信頼性を確保するには内部統制を構築することが不可欠であり、そのために「マニュアルの整備」、「職務の適切な分掌」、「ダブルチェックの徹底」が重要で、それが最終的に正しい決算書の作成へと

結び付くことを学んだ。また、経営指標の計算方法、指標の読み取り方について各自演習を行った。

2 日目は、1 日目の復習の後、グループに分かれて財務分析・経営指標について計算を行い、そこから考えられる企業の状況についてディスカッションを行った。参加者からは、「経営分析においては、指標の見せ方が重要であることがわかった」、「計算式や周辺概念への理解が浅いことを認識した」等の感想が寄せられた。

次回（基礎編第3クール）は、管理会 研修の様子(吉村氏)
計の基礎をテーマに、11月13日、14日に対面での開催を予定している。

指標からどういった問題点があるのかを考えます

収益性分析

① A病院

	X1年	X2年
医療事業収益	14,648	14,396
医療事業費用	14,030	14,370
A事業	5,112	4,207
医療主事業	2,120	1,880
診療科目数	1,881	1,800
診療科目	0	0
検体検査	1	1
検査項目	569	563
検査件数	34	34
検査項目数	31	27
検査項目数/検査件数	—	6
検査項目数/診療科目	48	51
検査件数/患者	88	13
検査項目/患者	72	42
検査項目/検体	—	88
検査項目/検査項目	216	376
検査項目/検査項目	-186	-332
検査項目/検査項目	-186	-332
検査項目	—	—

X1年：13,892万円 X2年：13,792万円

解題例

	X1年	X2年	(増減)
医療収益/医療費用	0.8	0.91	0.11
医療主事業	0.8	0.61	-0.2
診療科目数	0.5	0.63	0.13
検体検査	4.1	43.6	39.5
検査項目	42	12.8	-29.2
検査件数	0.0001	0.0001	0
検査項目数/診療科目	1.05	104.3	103.3

医療事業収益と医療事業費用の増減が小さい。収益性・生産性を分析する必要がある
 ② 医療事業主は主事業と医療主事業の増減を比較して増減率に分析する

③ 医療主事業は下し、メインと分ける
 ④ 主に費用としてワークアップが増える
 ⑤ A主役、診療科目に増減であるため、取組数は高いわけではない
 ⑥ 主業務費が高い。人件費、検査費、設備費、減価償却費以上の費用が高い
 ⑦ 収入が多い。前年より増え、収入も増える

⑧ 経営者収入は増え、120万円以上となっている
 ⑨ 経営者も利用して、上記以上の利益を出している

医療事業収益/医療費用

医療主事業

診療科目数

検体検査

検査項目

検査件数

検査項目数/診療科目

検査項目数/患者

検査項目/検体

検査項目/検査項目

検査項目/検査項目

検査項目

医療事業収益/医療費用

医療主事業

診療科目数

検体検査

検査項目

検査件数

検査項目数/診療科目

検査項目数/患者

検査項目/検体

検査項目/検査項目

検査項目

研修の様子(吉村氏)

口通信員だより口

「がんゲノムキャラバン隊」による講演会を開催しました

（J A秋田厚生連・能代厚生医療センター）

能代厚生医療センター（太田原康成病院長）で8月8日、秋田大学医学部附属病院がんゲノム診療センター主催の「がんゲノムキャラバン隊」による講演会が開催されました。

この講演会は、対象となる人へ適切なタイミングでがん遺伝子パネル検査が提供できる体制を秋田県内で構築することを目的に、一般市民向けと医療従事者向けの2部構成で行われました。

一般市民向けの部では、キャラクターAI「しーたん」が登場し、がん遺伝子パネル検査についてわかりやすく説明があり、参加者にとってゲノムに関する理解を深める貴重な機会となりました。

医療従事者向けの部では、キャラバン隊隊長の柴田浩行教授からがんゲノム医療についてご講演いただきました。また、スタッフ間で活発な意見交換が行われ、今後の診療体制づくりに大いに役立つ内容となりました。

今後もこのような取り組みを続けながら、スタッフの知識向上や定期的な意見交換を図るなど、患者さんへより良い診療を提供できるよう努めてまいります。



会場の様子



柴田教授の講演

（斉藤瑞希通信員）

第 60 回 横手救急フォーラムを開催しました

(J A秋田厚生連・平鹿総合病院)

この度、平鹿総合病院（堀口聡病院長）において 60 回目を迎えた「横手救急フォーラム」を開催しました。

このフォーラムは、横手市消防管内の救急隊員と当院を含めた搬送先医療機関の医師が集まり、救急隊員が日常業務の中で経験した事案が、最良の判断や方法で救命搬送されていたか、搬送先の医師と共に振り返り、情報共有を行う場として、毎年 3 回開かれています。

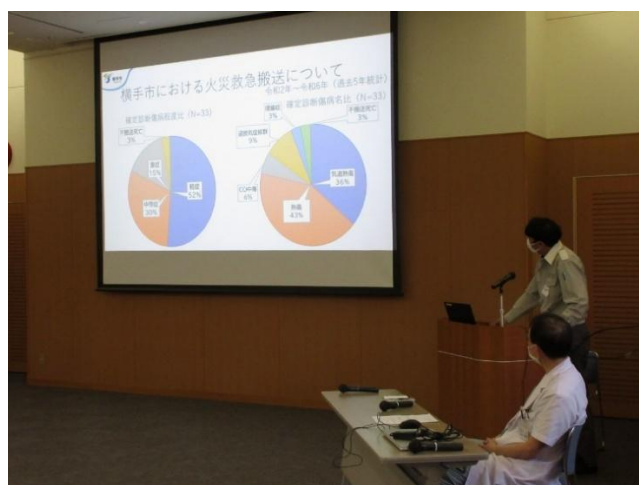
救急隊員の方から「火災傷病者に対し行った特定行為気管挿管の考察」「社会復帰した火災現場での CPA 事案について」の 2 題が発表されました。各演題発表後には、演者考察後の疑問点あるいはアドバイスをフォーラム参加者に投げかける形で進行され、活発な意見交換が行われました。

また、当院の医師からは「熱中症ガイドライン変更のポイントと診療マネジメント」「上記 CPA 事案症例の病院到着後経過について」の 2 題が発表されました。フォーラム終了後も救急隊員の方が個人的に医師に質問する姿もあるなど、救急隊員の皆さんの日常業務、人命救助に対する熱意や使命感を強く感じさせられました。

当院としても、このフォーラムが適切な救命搬送及び救急活動における救命率の向上に貢献できるよう、横手地域の救急医療機関として協力してまいります。



会場の様子



救急隊員の方の発表

(斉藤瑞希通信員)

企業型D Cセミナーを開催

(J A茨城県厚生連)

J A茨城県厚生連は、従業員への福利厚生の一環として企業型確定拠出年金(D C)を導入したことから、土浦協同病院(広岡一信病院長)で「企業型D Cセミナー」を開催しました。

講師には、日本における長期厳選投資のパイオニアとして知られる農林中金バリューインベストメンツ(株) 最高投資責任者 奥野一成氏を迎え、「人生を豊かにする長期投資」と題し、制度の概要やメリット・デメリットを分かりやすく解説いただきました。セミナーの様子は県内5病院でもリアルタイムで配信され、多くの従業員が視聴しました。

また、セミナーに併せて個別相談会も開かれ、関心を持った従業員が熱心に相談していました。近年、公的年金だけでは将来への備えに不安を抱く人が増えるなか、企業型D C制度を導入して従業員の資産形成を支援する動きが広がっており、J A茨城県厚生連もその取り組みを進めています。



講演をする奥野氏

(先崎理恵通信員)

厚生労働省の定める 認知症サポート医養成研修を修了

（JA神奈川県厚生連・介護老人保健施設ほほえみの丘）

介護老人保健施設ほほえみの丘は、施設理念の「ほほえみと思いやり・責任と誇りを持って地域に貢献します」に基づき、「その人らしい」生活が実現できるよう明るく家庭的な雰囲気の中でリハビリや日常生活能力の維持・回復を支援しています。

このたび、施設長 蒔田 知美が、厚生労働省が定める認知症サポート医養成研修を修了しました。認知症サポート医は、認知症の人の診療に習熟し、かかりつけ医等への助言その他の支援を行い、専門医療機関や地域包括支援センター等との連携の推進役となる医師で、伊勢原市内では5人目の修了者です。

今後も、関係機関と連携し、地域の高齢者が住み慣れた地元で安心して暮らせるよう職員一同努めてまいります。



施設長の蒔田知美先生

（石井朋華通信員）

学生向けインターンシップを開催いたしました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院・伊勢原協同病院)

8月18日に伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）、21日に相模原協同病院（荒木正雄病院長）で、事務職員を希望する学生に向けてインターンシップを開催しました。

当日は「神奈川県厚生連の概要」「先輩職員の業務紹介」「病院見学」「業務体験」などを通じて、神奈川県厚生連について理解を深めてもらいました。特に「業務体験」では、医事課職員との座談会や、グループワークによる病院事務職の魅力発信のためのポスター作成を行い、業務の具体的なイメージを掴んでももらいました。

開催後のアンケートでは「病院の内部を見学し、説明だけでは分からない実際の職場の雰囲気を感じることができた」「医療事務の幅広い業務内容を知り、仕事への興味が深まった」「体験を通して、自分のキャリアにつながる発見があった」といった感想が寄せられました。



インターンシップ開催の様子

(石井朋華通信員)

防火・防災訓練を実施しました

（JA神奈川県厚生連・相模原協同病院）

相模原協同病院（荒木正雄病院長）において9月4日、第1回防火・防災訓練を行いました。今回は夜間に地震が発生し、2階救急病棟で火災が発生したという想定で行いました。すぐに災害対策本部が設置され、病棟ではリーダー看護師が大きな声で指示を出し、初期消火に取り組みました。

いつ災害が発生しても混乱しないよう定期的に訓練を行い、防災意識を高めています。



防火・防災訓練の様子

（石井朋華通信員）

2025 年度 第 1 回テクノエイド研修会を開催しました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連では、7月30日～31日の2日間にわたり、介護福祉士を対象とした「2025年度 第1回テクノエイド研修会」を開催しました。

今年度も例年同様、日本ノーリフト協会 代表理事の保田淳子先生を講師にお迎えし、安全かつ効果的な福祉用具の活用方法を学びながら、具体的な事例を通じて、状況に応じた的確なアセスメント力の向上についてご指導いただきました。

保田先生の講義は、現場の実情に即した内容であり、参加者の意識と技術の向上に大きく貢献するものでした。

本会が実施するテクノエイド研修は今年で4年目を迎え、職員のスキルレベルに応じて「中級」「上級」プログラムを用意しています。本研修を通して、利用者にとってより安心で快適な支援の実現と、現場における腰痛予防などの介護負担の軽減を目指し、継続的な学びと実践に取り組んでいきます。

※ テクノエイドとは、福祉用具や支援技術を活用することで、高齢者や障がい者の自立を促し、介護者の身体的・精神的負担を軽減することを目的とした支援の総称です。



実際に福祉用具を活用した事例検討の様子



安全な移乗支援のため、リフトの操作方法を実践中



それぞれの現場が抱える課題について、グループで意見を出し合う参加者たち

(内田康平通信員)

防火・防災避難訓練について

(J A 富山厚生連・滑川病院)

滑川病院（小栗光病院長）で6月、2階中央廊下自動販売機横のごみ箱から深夜時間帯に出火する想定で防火・防災訓練が行われました。

非常放送と非常ベルを合図に、職員は消防本部への連絡と現場確認の二手に分かれ行動を開始しました。現場確認班は火災を発見、初期消火で鎮火せず、2・3階の入院患者を安全に避難誘導する訓練へと移行しました。

今回の訓練では、動けない患者の搬送用に新たに導入したエアーストレッチャーを使用しました。従来のシートによる搬送に比べ、安全性や操作性が向上しました。階段昇降も可能ですが人手が必要なため、今回は廊下での移動訓練のみを実施しました。

訓練後、消防署の担当者の講評を受け、小栗院長からは「能登半島の地震以降、滑川病院の避難確保計画を見直しており、今後も随時更新する必要がある」との話がありました。また講評の後には、消防署員の指導のもと、消火器による模擬消火訓練も実施され、参加者は落ち着いて消火動作を行うことができていました。

いくつかの指摘もありましたが、無事に訓練を終えることが出来ました。参加・協力頂いた皆様、お疲れ様でした。



消火活動の様子



ストレッチャー搬送



消防からの講評



避難訓練の様子

(橘優人通信員)

「医療安全研究発表会」を開催しました

(J A三重厚生連)

J A三重厚生連では、8月22日にJ A三重ビルにて第9回「医療安全研究発表会」を開催しました。本発表会では、J A三重厚生連の各事業所から医療安全に関する取り組みについて発表があり、WEB参加を含めて179名の参加がありました。

各事業所の発表は、現場での工夫や課題への対応など、実践的かつ興味深い内容ばかりであり、医療安全の向上に向けた有効な情報共有の場となりました。最優秀演題賞は鈴鹿中央病院（北村哲也病院長）が発表した「身体拘束回避・解除に向けた取り組み」でした。参加者からは「現場の声が聞けて参考になった」、「自施設でも取り入れたい取り組みがあった」といった声が寄せられ、今後の医療安全活動への意欲を高める機会となりました。

今後も、医療の質と安全性の向上を目指し、各事業所が連携しながら取り組みを進めてまいります。



発表会の様子

(吉田英記通信員)